

日本 GIF オンラインセミナー
「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP) とアフリカ東海岸物流回廊」
実施報告書(概要版)

公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団

セミナー開催概要

- 主 催 : 公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団(日本 GIF)
- 日 時 : 2021年9月29日(水) 14:30~16:00
- 開催形式: Zoom を利用したオンライン形式 (ウェビナー)
- 事前の告知方法: 日本 GIF の HP での告知 (別添:「開催案内」)、日本 GIF 関係者へのメールでの告知、日本 GIF の Twitter での告知、JICA サイト (JICA パートナーズ) での告知を実施した。
- 講演者: ブレンドン・キャノン博士 (カリファ大学 助教授)
- 司会者: 中山幹康 (日本 GIF 専務理事)
- プログラム内容:
 - 14:30 開会挨拶 中山幹康
 - 14:35 講演 ブレンドン・キャノン博士(事前に録画したプレゼンテーション)
 - 15:00 質疑応答(日本語・英語の逐次通訳)
 - 16:00 閉会 中山幹康

開催の趣旨

東アフリカ沿岸地域は、FOIP(自由で開かれたインド太平洋)構想の最西端の地であり、日本は以前から東アフリカ及び南アフリカ諸国の経済開発を支援してきた。東アフリカ地域の港湾から内陸へ伸びる物流回廊は、中国がこの地で「一带一路」構想による開発を進めていることもあり、FOIP 構想を掲げる日本にとっては非常に重要である。

日本政府や企業の関心は、地理的に近い東南アジアと南アジアに集中しており、中東や東アフリカへの関心は相対的に希薄である。日本 GIF は、昨年度キャノン博士に委託し、FOIP の観点から優先的に建設を支援すべき物流回廊を明らかにするための研究を実施した。今年度も引き続きキャノン博士の主導で、当財団のインターンを交えて、アフリカ東海岸物流回廊に関する研究を深めている。

今回は、アブダビ在住のキャノン博士に、上記報告書とその後の研究の進展についてご報告いただいた。

講演要旨

中国は、東アフリカにおいても「一带一路」関連プロジェクトを実施している。日本は、

安倍元首相が FOIP というコンセプトを発表した。東アフリカでは、日本と中国のインフラ開発競争が激しくなっており、今後は様々な情報に基づいた計画と政策立案を行い、物流回廊や港湾施設を整備していくことが重要となってくる。

ラム回廊は、日本がこれまで関心を示さず、投資してこなかったが、最近いくつかの企業が関心を示している。LAPSSET はまだ開発のレベルが低いいため、日本が今後大きな役割を果たすことができるだろう。

モンバサ回廊は、東アフリカにおいて最も経済的に重要な物流回廊である。モンバサは、日本の投資と開発援助の中心の地であり、地政学的・戦略的に東アフリカ開発の鍵を握っている。

タンザニア北部のタンガ回廊では、タンガ回廊は、石油パイプラインは未だ調査段階であり、周辺の人口も少なく、交通インフラも整備されていないため、最も開発優先順位が低い。

ダルエスサラーム回廊は、モンバサ回廊と比較して非効率的でコストが高く、人口が集中している南部や物流回廊からも離れており、開発優先順位は低い。

ナカラは、10 年前はモンバサ以外の回廊の中で一番可能性がある回廊だったが、政治的・経済的状況が大きく変化したため、開発優先順位が低くなってしまった。

第一にモンバサ、第二にラム、第三にダルエスサラーム、第四にタンガが、日本の FOIP 構想に関連して、今後戦略的な計画と開発を行う港となる。

<質疑応答>

回廊の優先順位の評価方法や、回廊の経済的・社会的影響、鉄道や航空機の利用について、日本の海外でのインフラ開発について、質疑応答が行われた。

アンケート・感想

参加者に対し、退出時にアンケートを表示し回答を依頼した。セミナー情報の入手先、実施内容の評価、今後のセミナーへの期待等について貴重なご意見を頂戴した。

また、今後のセミナー企画の参考のため、当財団のインターンにセミナーへの参加を促し、コメントを得た。

以上